

新潟県

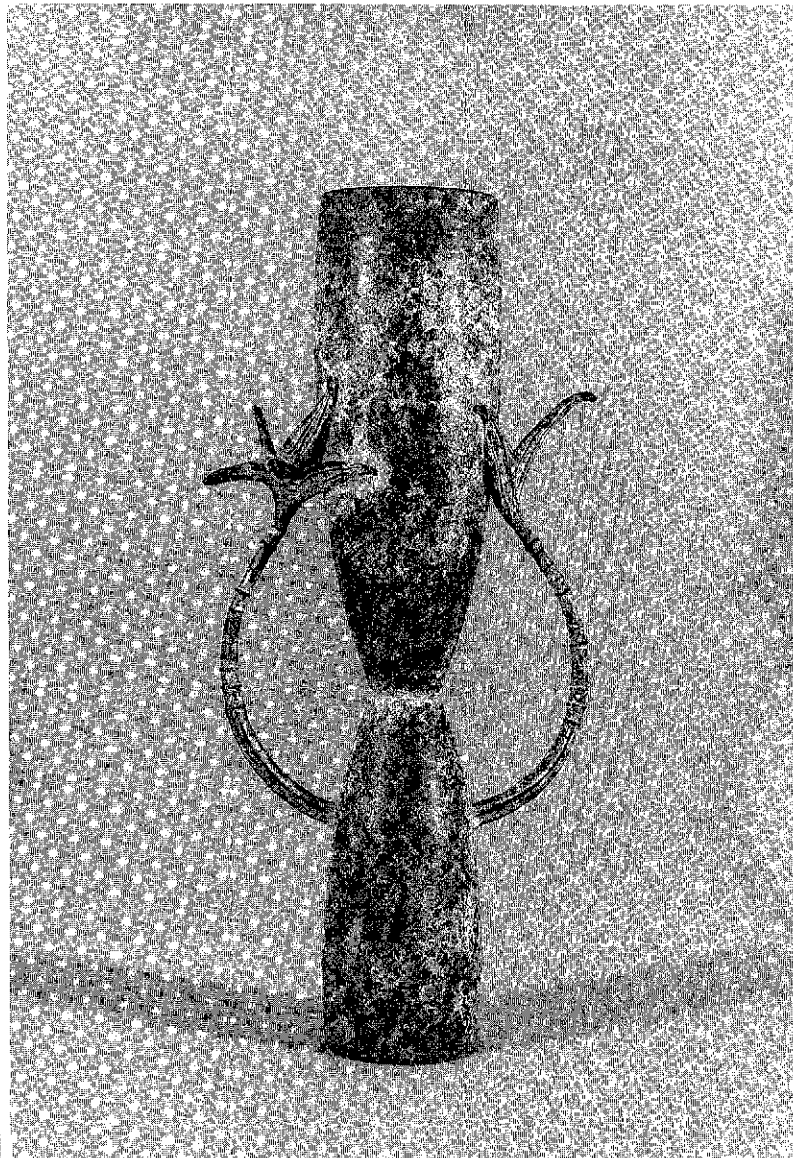
平成2年

公民館月報

1月
第443号

新春特集 **いま、世界の中の日本(上)**

NHK解説委員 田畑彦右衛門



佐々木 象 堂

(1882~1961)

じゅうそうじこばないれ
「獣装耳小花入」

1959年作

高39.5cm 蝟型鑄銅
新潟県美術博物館所蔵

蝟型鑄造の悠久な伝統を現代的感覚の中に生かしながら、工芸界をリードしてきた。佐渡佐和田町出身、人間国宝に認定された。

社会教育法施行40周年記念 第38回全国公民館振興大会

公民館の活性化に

パワーの結集を

建設費補助四五億三千六百万円の確保

昨平成元年11月30日 (木)、東京赤坂プリンスホテルを会場に、第38回全国公民館振興大会が開催された。

長・教育関係者など千数百人の参加を得て盛大な大会を繰り広げた。

ちなみに、本県からは56名の市町村長・教育長・公民館関係者が参加し大会の盛り上げに協力していた。

生涯学習実践拠点としての公民館の活性化「公民館補助予算の単価アップと総額四五億三千六百万円の確保」におき、全国から市町村

- 1、教育行政には、生涯教育体系の確立を。
- 2、行政のスリム化・財政の軽減の名のもとに、公的な社会教育を民間に委託する傾向があるが、これまた大きな問題である。

生涯学習社会に対応するよう、行政は教育哲学を持った生涯学習体系を樹立することを訴えたい。そこには、公立公民館を重要な拠点として位置づけた教育体系の樹立を念願する。

二、公民館人は、アンテナを高く掲げよ。

21世紀は十年先、いろんな展望や様相が見えている。国際化・情報化・高齢化など多岐にわたる情勢について、公民館人はアンテナを高く掲げて

情報を吸収し、研究し、実践に移していく努力をお願いしたい。

全公連では、近々ハイレベルの研修事業を実施し、専門性強化に役立ちたい。

本大会を通じ、公民館人と、理解を示してくださる市町村長さん方との連帯を強め、新しいパワーを結集する大会にしたい。

とあいさつがあった。

続いて、服部毅一公振連会長は、「公民館活性化のために、市町村長のバックアップと国庫補助予算四十五億三千六百万円の獲得」のための運動を強化しようといさつされた。

記念講演は上野動物園々長中川志郎氏による「動物に見る公益行動」と題するもの。

ホワイトウルフ(白狼)の生態、象の出産直前の介護象の出現、ライオンの子育て、などに関する動物の生態と公益行動について説明しつつ、人間の子育ての必須要件、家庭教育の希薄化への警鐘をならされた。

最後に、宣言、決議を万場一致で可決採択して閉会した。



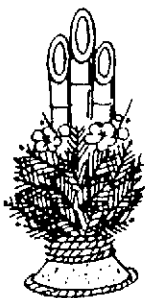
服部公振連会長あいさつ



吉里全公連会長あいさつ

公民館補助予算
総額四十五億三千六百万円の確保

生涯学習実践拠点としての
公民館の活性化



第38回全国公民館振興大会表彰式 稲葉幸次氏受賞者代表に

第38回全国公民館振興大会での恒例の職員表彰については、本県関係者は次の六氏であった。なお、永年勤続職員表彰の部門では、稲葉幸次坂井輪地区公民館長(新潟市)が全国の受賞者代表になられた。

- 優良職員表彰
 - 磯部友記雄 出雲崎町中央公民館係長
 - 田辺ゆき子 柏崎市黒姫公民館長
- 社教法施行40周年記念功労賞
 - 高桑紀美江 燕市公民館主任
 - 稲葉幸次 新潟市坂井輪地区公民館長
 - 野村松之進 長岡市富富亀公民館長
 - 渡辺達也 長岡市大積公民館主事



受賞者の稲葉氏

辛 口

最近、マスコミが実施した国民意識調査を見ますと、九割の国民が「中流意識」そして

「幸福」であると感じていると報道しています。幸福感の中身は、健康・家庭・友人の順で、前二者の充足感に



加えて人間関係の充足を求めています。また、「経済的豊かさ」より「生活の余裕・個性を重んずる社会へと変化してきた」としていま

東京一極集中が進み、地方は、若年層の減少・嫁婿問題をして高齢化の急速な発展等があります。この状況

自からの地域を考えた機会でもありません。皆様には、今後、これら地域住民の声を一層大切に、生涯学習の体系化が叫ばれている今日、各々の地域特

変化に対応した活動を

糸魚川市長 木島 長右衛門

様・個性化の時代であり、また、その変化の速度も一層早まるものと考えられます。

た取組みを頂かなければなりません。幸いにも、昨年来の「ふるさと創生」一億

円の使徒を巡り、地域が一体となって、自らの地域を見詰め直し

一方、足元を見詰め直す、国際的潮流の中で

が一体となって、自らの地域を見詰め直し

が一体となって、自らの地域を見詰め直し

なぜ自主運営グループが育たないのか

公民館の今日的課題の第三点は、「公民館の学習活動から、なぜ自主運営グループが育たないのか。」ということである。かつての県公民館大会パネル討議での住民代表の言葉に「公民館活動が活発になると、住民の団体活動が衰退する。公民館活動に参加する住民に対する公民館のサービスには限度が必要ではないか。」というのがあった。

続公民館日記(8)

このことは、「公民館は余りにも住民をお客様扱いにして過ぎていてのではないか。」ということであり、住民への至れり尽くせりの便利屋的サービスは、公民館として正しいサービスとは言えないし、主体的な住民、自主運営グループも育たないのではないかと、ということである。

地域における社会教育の中心の実施機関である公民館が、その本来の役割を正しく果たすか、ただ単なる住民の便利屋的存在に終わるかは、公民館職員の日頃の住民との接し方に影響されるところが多く、いたずらに住民に迎合する接し方では、何時になっても自主運営グループは育たず、何のための公民館なのか、と言われかねないのではないだろうか。

日頃私は「社会教育の主体者は国民であり、公民館活動の主体者、主役は対象地域の住民である。」と考えてきたが、このきわめて当り前のことが、現場の公民館においては、住民との接し方で案外忘れられているので

(柏崎市中央公民館 元事務長・徳間助夫)

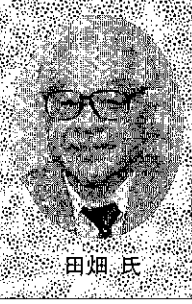
はじめに

本日はお招きをいただきまして、有難うございました。
 社会教育法が施行されました。ちょうど四十年。その四十年の歩みのままに、新潟県の各地で、地域の教育のために、公民館活動のために、今日までご苦労を重ねてこられたことに心から敬意を表します。

先ほどご紹介いただきましたように、私は三重県伊賀上野の生れであります。松尾芭蕉の故郷でございます。あの松尾芭蕉が奥の細道の旅をいたしましてちょうど今年で三百年。「荒海や

の日本(上)

彦右衛門



田畑氏

おけるを紹
 旨のみは
 一部要旨の誤
 字・語意

7月7日)に
 て一部要旨の誤
 字・語意

佐渡によこたふ天の川」の句は、七月七日に銀河の模様を詠んだとされてはいますが、その同じ日付の今日皆さんにお目にかかれるというのには、何か歴史の中で大きく流れているものがあるのだなあ、という気がいたします。もっとも、あれは旧暦によるものですから、今日あたりは山形県の尾花沢の鈴木清風の家に逗留している頃だと思えますが、やはり、天の川の牽牛と織女が一年に一度合うというその思いをこめて詠んだものですから、その意味でも、私にとりまして今日の日を特別に意味のある日のように思うわけでございます。

四十年の歩みのなかで、私も放送を通じまして、皆様いろいろなとお世話になり、また一緒に仕事をさせていただき今日までできたわけでありませんが、昭和から平成になりました、激動の国際社会の中で生きていかなければいけない日本、その変化の激しい中で、「いかに地域の明日を作っていくか」という公民館の役割が、また新しい使命を負って、これからの地域づくりの中核になっていただかなければいけない大切な時期にあたると思えます。

そこで、今日は世界の中の日本という大変大げさですが、し

かし、地域の暮らしの一つ一つが、国際的な動きの中でいろいろと影響されている時代でございますので、いま日本がどういう立場にあるのかということと、地域の活性化ということをどういうふうにかと考えていくかというところをお話させていただきたいと思えます。



一、国際化・情報化・高齢化社会の問題

貿易摩擦ということになりまして、ご当県でも夙に有名な、燕の洋食器をはじめ栃尾市・見附市の合成繊維のように円高の影響をものろに受ける産業がございます。また、円高だけでなく、東南アジアを中心とする国々の追い上げによって非常に苦しい

努力を強いられられているというわけでもありません。さらに、日本一の米所新潟県が、牛肉・オレンジに続いて米の自由化という難題に直面しているというように、いろんな意味で国際化の中に新潟県自身が立たされています。

その一方で、上越新幹線を始めとしまして、関越自動車道や北陸自動車道といった広域交通網の幹線の整備により、東京をはじめ関西圏とも距離が短くなってきたことから、新たに地域をどういうふうに興すかということが緊急の課題となっております。また、最近ではレジャーの時代です。リゾートとしての新潟県の開発などいろんな意味で地域の暮らしがそのまま世界に直結している、そんな時代です。

21世紀をひかえまして、いま国際化の時代、情報化の時代、そして高齢化社会をどう迎えるかという時代と言われています。

1、国際化の時代というのは一つには貿易摩擦と市場開放の要求にどういうふうにかつていくかというところであります。そしてもう一つには、経済大国となった日本が、これまで以上に世界の各国に対してどれだけのことのできるか、特に途上国の援助

を始めとしてどれだけ世界に貢献できるかということが問われる時代になっていきます。

2、情報化というのは、一つにはこれまでのようにモノを作る産業と並んで、もう一つサービスとか情報とか金融といった経済活動が日本の経済を支える時代になってきています。そのことから、東京を中心とした首都圏だけが肥大化していること、東京圏と地方との格差をこのまま放っておくと広がるばかりです。いわゆる二極化にどう対処していくのか。地域づくりというのは、東京と地方との格差をこれ以上広げないために、そしてみんながそれぞれの地域で幸せを感じながら暮らすために、どういう地域を作り直さねばならないのか、そこところが皆さんの仕事と深く関係しているところだと思えます。

3、高齢化はいうまでもなく、一つには年金を中心とした暮らしの保障と健康保険を中心とした健康の保障です。その制度をいかに維持して次の世代につないでいくかということです。もう一つは、皆さんのお仕事に関係の深い、それぞれの高齢化を迎えた人々がどういうふうにかつていくかという事です。

以上申し上げました国際化・

新春特集 いま、世界中の中 NHK解説委員 田畑

第40回新潟県公民館大会(平成元年)を記念して、講師の理解を得るため、録音テープ再生のため、編集部の責任で発表する。

情報化・高齢化の中での問題をそれぞれ二つずつ上げてみたわけですが、そういう問題をそれぞれ同時に解決していかねければならない。まさに、その点で公民館活動を中心とした地域活動が大きな役割を担うことになるだろうと、そんなふうに考えるわけです。

二、横の摩擦と縦の摩擦

1、国際化社会 (1) 経済摩擦と市場開放

連日アメリカをはじめヨーロッパあたりからいろいろな注文を受けております。どうしてこんなことを言われなければいけないのかと思いたくなるような無理難題も多うございます。米の自由化ということは、要求されるままにずるずるということではないでありませうけれども、しかし、そういう要求に対して十二分にわたりあつていくだけの用意をしていかなければいけないということですが、私たちはこれまで、休みを休まないで一生懸命に働いて、いものを作つて、それを世界の人々に提供して喜んで貰つてまいりました。ご当地の地場産業にしても、輸出によつてずいぶん世界のいろんな人たちの暮らしに貢献してきました。こんなに一生懸命に働いてどうしてこんなに言われなければいけないのかということを感じることも四・五年のことがございます。しかし、諸外国からの日本に対する批判というものを聞いておきますと「ああ、なるほどそういうことがいけないのか」という点が一つござります。それは、今まで日本が国際社会の中で、特に経済的に伸びてきた大きな力というものは、技術の進歩を中心とするいい製品を作るといふことでありますけれども、アメリカ・ヨーロッパの人たちから見ますと、みんなこれらは向こうから教えられたものではないかということなんです。

す。ご年輩の方々には思い当ることだと思えます。昔は時計と言えばスイス、カメラと言えばドイツ、車と言えばもちろんアメリカでございました。そういう技術を習いながら、みんなそれを追い越してしまつたのが今の日本でありまして、教えた方にいたしますと、せっかく教えてやつたのに教えたほうの全部



を負かすようなことをしている、それが許せない、というんですね。したがって、これから、もし経済的に日本がこれ以上進歩するのであれば、自分たち自らが開発したもので世界をリードすることを求められるであらうと思えます。

(2) 個性と創造性の時代

臨教審が打ちだした個性的・創造的教育というのは、ただ人間らしい教育を取り戻すという以上に、これから国際社会の中でやっていくには、よそ様のやつたものを真似てうまく作り変えるというに止まらないで、日本人でなければ考えられないもの、日本人でなければ開発できないものを次々に開発してそれで世界の国々に貢献していくことが求められています。その意味で次の時代を担う人たちの教育は、個性的で創造性のある教育をしていかなければならない。その辺に教育を含めましての改革というものがあつたらうと思えます。

2、情報化社会

(1) モノから情報・サービスの経済へ

ここ三・四年の大きな変化は、いわゆる重厚長大と言われおりました産業から、例えばハイテクだとか、バイオといった新しい素材を使った産業、あるいは、情報産業など先ほど申し上げましたような、モノを作る経済から、見えないサービスや情報といったそういう経済に移ることが今求められています。つまり、産業構造の転換の時代です。それはもう、日本中を巻き込んで、そういうふうになつて

なっているわけがございます。そういう中で、農業もまた本当の意味で自立しながら、基礎的なことをしっかりとした農業を再構築していかなければいけない時代だろうと思えます。

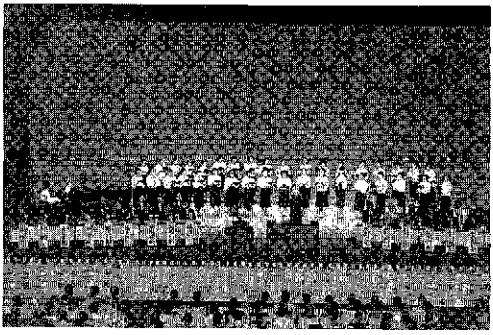
(2) 東京と地方の二極化

最近の首都圏を中心とする情報の集中、サービスや金融経済の発達ぶりは大変なものがあります。例えば、いま東京を取り巻く神奈川・千葉・埼玉の一部を含めて「東京」という国があると仮定しましょう。もう一つ「地方」という国があると仮定します。その「東京」と「地方」という二つの国がお互いに貿易をしているとしますと、「地方」が「東京」へおよそ八兆円もよけいに払っているという計算が成り立ちます。すると、日米間に貿易摩擦があると申しまして、もせいで八兆円から九兆円ですから、その八・九兆円余計に稼ぐことでこんなに言われるのなら、今度は、地方が東京に向つて、もつといろんなことを言わなければいけないんじゃないかと思えます。これ以上東京と地方との差が広がるといふことは、地方の存在そのものに関わってくるわけですから、この辺で歯止めを掛けないといけない、そんな時代になつてい

東京と神奈川・千葉・埼玉の一部を合わせますと、面積では日本の国土の3.6%であり、そこに日本の全人口の4分の1が集まっているというほど過密状態になっています。国民一人当たりの所得は百としますと首都圏の所得は122、地方は87と大きく開いています。あるいは、東京から地方に向けて発信するいろんな情報(新聞・雑誌・電話等々)が87に対して地方から東京へ向けて発信する情報は13というようなアンバランスが生じているわけです。それをなんとかバランスよく保っていかなければなりません。東京と大阪を比べて、東京の宛町でできる株式会社、大阪北浜での取引を比べますと、北浜が僅か一割の取引しかできない。つまり、金融というものは情報の集まるところを中心に盛んになるところから見ますと、いま大阪も地盤沈下に悩んでいます。そういう意味で地方の活性化、地域の活性化というものをもう一遍見なおしてみなければいけないと思います。

そんな中で去年出てまいりました「ふるさと創生」の一億円、これを各市町村でどんなふうに使うのか楽しみです。この一億円の使い方について、財政学その他の専門家の中には、ああいう方法は問題があると言いますけれども、私は面白いと思うんです。ところが、方々の村ではどうしていいか分からないとして「あなた、いい案ありませんか。」と町長さんや村長さんに相談をうけます。ここでただ一つだけ申し上げることがございます。地域の開発のマスタープランを作るとなると、これまでは、日本中の市町村が、みんな東京にある業者に頼んで、あるいは、大学の学者に頼んで基本計画を立ててもらおう。そして、立派なパンフレットを作る、というのがこれまでの自治体の傾向でした。村のマークをつくるにしても東京の業者に頼んで、そのマーク一つに一千万円払ったというふうなそういう依頼のし方をしています。あ、これは、一つか二つのパターンを作っておいて、あとは町や村の名前を入れ替えるだけなんです。これではただ業者を儲けさせて終わってしまいう結果になっています。もしそういうふうに使われるのなら、これは大変もったいないことなんです。地元の人たちで、地元のアイディアにより、地元風の土を踏まえた、泥臭くともいいからそういうアイデアを引き出したいものです。三千二百億円もお金の殆どが東京へ集まって

しまおうという結果になってはいけません。これ迄の教育や行政が東京の真似をし、東京についていく(日本中が同じことをやる)という時代は終わったんだというだけには覚悟しておかなければいけないと思います。とにかく、何か中央の真似をして、それについていけば安心だということから一歩踏みだして、本当に地元にはかないものをお互いに作り出していく。公民館の活動でも、地域の中から汲み上げたもので特長あるものに作り上げていくという方向に方向転換がなされなければいけないと思います。



高齡化社会というのは、同じ地域、同じ家の中で、三世代なり四世代なりのそれぞれ違った価値観を持った人たちがどういふふうに関わり合っていくかというのを同時にやらなければいけない。これを私は縦の摩擦というふうに呼んでいます。同じ家の中で、同じ地域でお年寄り、今の世代の若い人たちとが、どういふふうに関わり合っていくのか、なかなか難しい。調整していくのなかなか難しい。そのことも、また公民館をはじめとする地域の活動に大きな意味があるのだと思います。長寿社会というのはおめでたいことではあります。お互いに価値観を尊重しあいながら調和を保つという、そういう新たなものを開発していかなければならぬというところが、今の世の中の難しいところだと思えます。そういう価値観を調整しあうという意味からも、地域での学習ということの大きな意味があるのだと思います。

その意味で、一年前に文部省の研究會が「生涯学習関連施設のネットワーク形成」という中間報告を出しました。その中間報告では、公民館・図書館・博物館というものを拠点にしてやって来たわけですが、これからは、もっと目を広くして、駅であるとか、病院であるとか、

官公庁の庁舎であるとか、郵便局、農協、銀行などの事業所を視野に入れて、そういう広いネットワークでそして気軽に利用して楽しく学習できるようなネットワークを考え直さなければいけないと思っています。

(2) 年金、医療の負担増大
これから高齡化社会がますます進みます。そして今の若い人たちに高負担を強いられる時代がやってまいります。そこで、生活のなかに多世代が同居することによって、経済負担を軽くすることのできるメリットが考えられつつあります。現に都會では、若いお嬢さん方に聞きますと、舅(姑)さんと一緒に暮らすことを昔ほど嫌だとはいいわなくなりまして。決して好き好んで一緒に住みたいというわけではなくとも、「住宅ローンの負担のことを考えれば、お母さんと一緒に住むのなんか何ともないわ」という。好きか、嫌いかわりには、損か得かで考えるわけではなく、いろんな世代が一緒に住むことにより、いろんなものを伝えていく、新しい価値を付け加えるといったことも視点に入れたら地域を造っていくことを考えなければいけません。

3、高齡化社会への対応
(1) 縦の摩擦の調整
(以下次号)

官公庁の庁舎であるとか、郵便局、農協、銀行などの事業所を視野に入れて、そういう広いネットワークでそして気軽に利用して楽しく学習できるようなネットワークを考え直さなければいけないと思っています。

(2) 年金、医療の負担増大
これから高齡化社会がますます進みます。そして今の若い人たちに高負担を強いられる時代がやってまいります。そこで、生活のなかに多世代が同居することによって、経済負担を軽くすることのできるメリットが考えられつつあります。現に都會では、若いお嬢さん方に聞きますと、舅(姑)さんと一緒に暮らすことを昔ほど嫌だとはいいわなくなりまして。決して好き好んで一緒に住みたいというわけではなくとも、「住宅ローンの負担のことを考えれば、お母さんと一緒に住むのなんか何ともないわ」という。好きか、嫌いかわりには、損か得かで考えるわけではなく、いろんな世代が一緒に住むことにより、いろんなものを伝えていく、新しい価値を付け加えるといったことも視点に入れたら地域を造っていくことを考えなければいけません。

小学生の眼

公民館は小学校社会科で取扱われる教材。たまたま、巻町公民館長の好意により、同公民館を参観した同町巻西小学校四年生の参観後の感想文の提供をうけたので紹介する。

佐藤 歩美さん

好きになつてくれればいいと思
いました。

私は、最初、公民館を見学す
ると聞いた時、「なあんだ、
公民館なんて、見学しなくても
みんな知っているよ」と思つて
いました。それは、十月六日に、
西蒲地区児童生徒科学発表表
会で、三階の小ホールと視聴覚
室へ入ったし、一階の図書室に
もよく行っているからです。で
も、見学に行つてみると、知ら
なかつたことが、とてもたくさ
んありました。たとえば、二階
には、研修室・調理実習室・和
室があつて、公民館には、五つ
のお部屋と図書室があること、
図書室にある本は一万六千冊
で、これからも本をふやそうと
していることなどです。公民館
と文化会館を作るために、十五
億六千万円もかかったと聞いた
時はとてもびっくりしました。

それと、図書室の本をふやそう
としてるのは、とてもよい事
だと思ひます。図書室の本をみ
んなが読んで、一人でも読書が

ぼくは、公民館の中で二つな
らいものをしています。
そのうちの一つは、しゅうじ
です。二年の時からはじめまし

水倉 徹君

もし、巻町に公民館がなかつ
たら、楽しい生活は出来ないと思
ひます。公民館はとても大切
だと思ひました。(以下略)

相馬 多恵子さん

わたしは、ふだんなにげなく
使っている公民館には、とても
たくさんのお金がかかっている
ことが初めてわかりました。十
五億円なんてすごいなあと思
いました。もう一つびっくりした
ことがあります。それは、十五
億円もかけた公民館に、働いて
いる人が、たったの七人です。
部屋もたくさんありました。

今年、百人一首教室へ入つ
てみたいと思ひます。

出雲崎町中央公民館係長

磯部友記雄氏 (45歳)

11月30日、振興大会出席のため
の車中で顔を合わせ、早速の
インタビュー。

「受賞おめでとうございます。

「有かとうございます。でも、
公民館勤務もあまり長すぎるの
も問題がありますよ。他の部課
の仕事が何も分らないから……」
なるほど、横の連けいの強化が
大事となる生
涯学習体制下
の公民館にと
っては、たし
かに困ること



「出雲崎の目玉は「良寛」で
す。良寛に関する学習やイベン
トにもっと力を入れたい。近隣
の町村と連携して、県内外の「良
寛学習」を望む人たちのための
資料、「良寛マップ」のようなもの
を作成したい」とその構想を
熱く語っているうちに、列車
はまたたく間に上野駅に到着し
ていた。(上村記)

素顔拝見

荒川町教育委員会主事

信田和子さん (27歳)

「公民館の仕事をしている人
達って、すごく心くばりをして
いるんですね」
役場に入つて総務課や町民課
などを経て、昭和六十三年八月
産休を終えて出勤した日に公民
館勤務となった。

「今までの仕事って、どちら
かと言うと、来庁した人達に教
えてあげるような仕事だったん
です。でも、公民館の仕事は、
参加者といっしょに作っていく
ような仕事で、しかも結果がど
うなるのか、実施してみないと

わからないう部分があ
つて、私自身が教えられ
ます。
特に、主人からも言われたの
が「気のつかい方がへただ」と
言うことです。

相手に伝わるような心くばり
を心がけて、参加者を増やした
い」と抱負を語ってくれた。
庶務と広報作りを担当してい
るが、さわやかな笑顔の対応が
素敵な女性です。

「村上市中央公民館社教主事」
田嶋雄洋記



資料紹介

生きがいと健康づくり

シニアウエイブ 創刊号
(財)長寿社会開発センター

財団法人長寿社会開発センターから「シニアウエイブ」という啓発誌が昨年十一月に創刊された。

「長寿社会開発センター」そのものが耳新しい機関であるが、これは、それまでの「財団法人福祉開発センター」(昭和天皇・皇太后陛下御結婚五十年記念の恩賜により昭和四十九年に設立したもの)を改組したもので平成元年十一月に新たに発足



- (財)長寿社会開発センターの創設によせて
- 高齢者の生きがいと健康づくり推進事業
- 明るい長寿社会の先導県をめざして
- 和歌山県いきいき長寿社会センター —
- 真に長寿をよろこびあえる社会へ
- 栃木県高齢者総合センター

情報スクランブル

・ 実年期の老後設計

資料紹介

文芸さんぽく 第5号
山北町教育委員会

山北町公民館から同町教育委員会刊行の「文芸さんぽく」第5号が惠贈された。

随筆・短歌・俳句・川柳・詩・創作童話・小説・評論など、あらゆるジャンルの作品が載せられている。どの作品も山北町ならではの土と汐の香のするもので、まさに町民自身の筆になる文芸誌の性格がにじみ出ていて実にさわやかである。

中に、学外演習で来町していたという都会の学生たちによる提言集を掲載していたのも印象的であった。

- ・ 保健生活のポイント
- ・ 怠ける勇気を持ちましよう
- ・ 寝たきり老人ゼロ作戦
- エッセイ
- 「おはよう」を明るく言おう
- シニアリーダー
- ・ 向井三雄さん(栃木県)
- ・ 北田一夫さん(兵庫県)
- A4判、32ページ、紙面は一部カラー刷り。隔月発刊の予定。
- なお、日下、希望者への頒布は行なっていないので、関心あるむきは、県公連事務局に問い合わせられたい。



A5判245ページの大冊で、年々ページ数もふえ、質量ともに充実している。関係者の努力によるものであろう。

毎号のことながら、美しい表紙絵が、町の風景をとおして自然に恵まれた町のたたずまいを示している。

おわびと訂正

本紙平成元年12月号(第44号)の三面「生涯学習センター設置を金子県知事へ陳情」の見出しによる文中「県生涯学習推進会議」という表現が二ヶ所にありますが、いずれも「県生涯学習推進部会」の誤りでした。また、「知事自から会長の」とあるのは「知事自から部会長の」の誤りでした。謹んでおわび申し上げます。あとも訂正いたします。

あとがき

◆千歳大橋のたもとから迎える初日の出に今年一年の平穏を祈る。だが、元旦早々からの交通事故多発。交通戦争の激化が予想される。公民館の学習課題としても、このことに重点を置く必要があるだろう。

◆本年もよろしくお願いします。(上村記)

発行所 新潟県公民館連合会

【新潟市川端町2-9・県林業会館内】
【電話・新潟 (025) 224-6073】

発行人 会長 木下 清一

編集人 事務局長 上村 捨二郎
【定価1部 120円 年共 1,440円】